

伊沢小学校
「学力向上実行プラン」

主体的に学び、共に高め合うことができる児童の育成
～学校図書館を活用した学習活動の充実～

学力向上推進員 須見昇司
委員 校長 井形啓二・ 教頭 鶴本正道・ 十川典久(教務主任)
岩佐 美恵子(研修主任) 岡田仁美(学力向上推進講師)

伊沢小学校長

井形 啓二



◎◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まった話形に沿って、自分の考えを表現できる児童が多い。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて読むことができる児童が多い。 ●漢字の読み書きや語彙が十分でない児童がいる。 ●問題解決の過程で、知識や技能を生かして、数学的な見方を働かせることが苦手である。 ●読むことができるが、条件に従って文章を書ける児童が少ない。 ●自分の考えを持っていても、話せない児童がいる。 ●時と場に応じた話し方や、目的に沿った話し合いが苦手な児童がいる。	①基礎・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ②漢字や語彙の定着を図り、日常の中で使うことができる。	①既習計算の復習小テストをショートスタディで実施する。 ②ノート指導を充実させる。 ③低学年は、読書で文字・言葉に親しみ、高学年は国語辞典を活用し語彙を広げる。 ④図形や漢字の学習でICTを、効果的に活用する。 ⑤個に応じたワークシートや課題を与え支援をする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まった話形に沿って、自分の考えを表現できる児童が多い。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて読むことができる児童が多い。 ●問題解決の過程で、知識や技能を生かして、数学的な見方考え方を働かせることが苦手である。 ●読むことができるが、条件に従って文章を書ける児童が少ない。 ●自分の考えを持っていても、話せない児童がいる。 ●時と場に応じた話し方や、目的に沿った話し合いが苦手な児童がいる。	①目的に応じて、必要な情報を集め、自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりすることができる。 ②文章の要旨を伝えたり、問いの意図を正しく理解したりすることができる。	①個別やグループでのホワイトボード学習を取り入れる。 ②振り返りの場で「書く」活動を取り入れる。 ③新聞等を活用し、読み取ったことや考えたことを伝え合う場を設ける。 ④学校図書館を利用して、課題に合った情報を選ぶ活動を取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に発表する児童が多い。 ○教え合い、助け合うことができる児童が多い。 ○家庭学習の習慣がついている児童が多い。 ○学習規律が身につけてきた児童が増えてきた。 ●難しい問題に最後まで取り組むことや、疑問に思ったことを自ら調べようとする意欲が低い傾向がある。 ●多様な解決方法を探ろうとする児童が少ない。	①自分の思いや考えを進んで発表することができる。 ②自らの課題に根気強く取り組むことができる。 ③目的を持って、自分の力で学習を進めることができる。 ④目的に合った本を選び、本に親しんだり情報を集めたりできる。	①授業の仕方や内容の工夫、ICTの活用などで学習の意欲を高める。 ②家庭学習の手引きの活用や活用状況の確認をする。 ③具体的に褒める等、ポジティブな行動支援をする。 ④個に応じたワークシートや課題を与え支援をする。 ⑤学校図書館の環境整備を行う。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

